清里まちづくり協議会事務局／〒370−3573　前橋市青梨子町339（清里公民館内）TEL 027−251−9005　FAX 027−255−0341

里の子ちゃん
（きよさと焼キャラクター）

枝豆の収穫・豆出し作業

今年は新コロナウィルスの影響で地域の活動が大きく制限されています。

毎年恒例の枝豆の苗植えも役員だけだったので、収穫は地域の子ども達と一緒にと思っていましたが、残念ながら収束の見通しがたたず7月25日（土）26日（日）にまちづくり協議会の会員で行いました。

25日は畑での収穫、さや取り・洗浄作業を行いましたが、田村副連合会長さん宅の機械をお借りでき、作業がはかどり大変ありがとうございました。また来年以降もできましたらよろしくお願いします。

26日は公民館で、熱々ゆでたての枝豆を皆さんで豆出ししてもらいました。

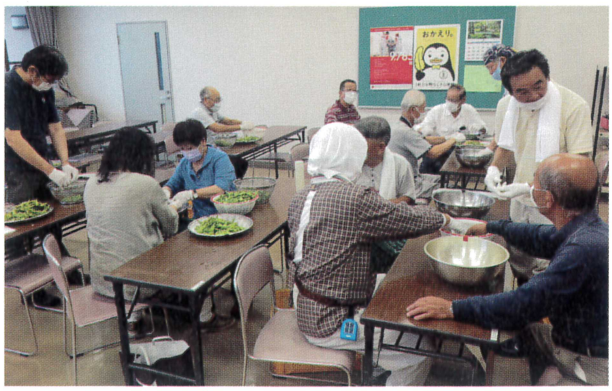
ここ2年参加いただいている利根実業高校の「むくゾウくん」も今年のコロナ禍で不参加となり全て地道にコツコツ人力での作業でした。

無事に来年1年分の枝豆は確保できましたが、来年は各イベントが安全に開催され多くの皆さんにおいしい「きよさと焼」を楽しんでいただきたいですね。

雨の畑での抜き取り作業

朝から調理室で茹でます

さやを取る機械、作業



人力での地道な豆出し作業

取ったさやも自動で洗浄

特　集　清里地区の文化財

まちづくりを行ううえで、地域の歴史や文化を知っておくことは重要であると思います。

コロナ禍の中で、今年度は行事の中止が相次いでいます。この機会に地域の文化財への関心を深めて頂けたらと思い特集を組みました。記事は、平成21年11月に清里公民館より刊行された「きよさと再発見(Ⅱ)清里文化財めぐりハンドブック」より抜粋して掲載しました。

青梨子町前原

①熊野神社と道俣神

この熊野神社の創建はいつの頃か不明です。祭神は速玉男命（はやたまおのみこと）他二柱。

3月19月と10月9月が祭日。霊験あらたかな神社であります。熊野信仰については熊野から浄土へ旅立つ所とされていました。参詣すると邪鬼や魔除けにご利益があるとされてきました。平安時代に和歌山県の熊野三山（本宮、新宮、那智）の構成が出来上がり熊野信仰が始まり、山岳宗教が起こり、山伏修行が活躍し、中世に全国から熊野参詣が盛んになったのです。

前原の熊野神社には次のような俚伝（りでん）があります。享保2年（1717年）に前原出身の松島三郎兵衛が京都の公家様で富公路家に仕えていました。富公路家の主人が病で倒れるとそれを哀れに思い前原に帰郷、熱心に熊野神社に全快を祈りました。すると病は全快し、以来前原の熊野神社に毎年、富公路家から白銀三枚を賜ったとされています。

熊野神社の境内には、県内にもめずらしい、道俣神の石造物が建立されています。これは道祖神信仰のものです。道行く旅人の安全を守ってくれる神それが道祖神なのです。道俣すなわち道が二俣に分かれる所、人が道に迷ったりして難儀する場所で旅人を守り導く道祖神のことです。現在は熊野神社の境内にありますが、古くはこの近くの二俣の道の所に建立されていたものと考えられます。

清野町

②八幡宮

寛永2年（1625年）に建立されました。箕輪城落城のおり残党の数人が逃れて住み、この神社を祀り始めたとされています。当時この地は狼の出没する恐ろしい原野であったとされます。この地に逃れて来た残党の者たちが社を建てるとき、自分たちで持ってきた弓矢を埋め、そこに京都男山八幡を勧請したとされています。

日本の神社で八幡宮の数が最上位。信仰の本源は九州の宇佐八幡で天平年間に八幡大神が現われ奈良の大仏を鋳造するのに関係します。九州の銅の生産にからんで、奈良の大仏建立となり、その後八幡神は国家的大事業に関与するようになるのです。そして皇族と深く関わり源氏の氏神となり、その後武士政権の成立と共に武神の最大の神として、全国的に広まりました。戦時中（第二次世界大戦）の八幡八社めぐりなどは、こうしたことを踏襲して行われたのです。

③野良犬の獅子舞

この野良犬の獅子舞は振り出す前に必ず八幡宮の境内から行われ、古く山伏修験道者が伝えた流派のものであろうとされています。「実白龍天流野良犬の獅子舞」が名称であり、東北の山伏獅子の流れをくみ、舞が非常に荒く頭を左右に振り、吉岡町のカサから伝承されたものらしく、江戸期に十二文を教授料として払って伝授されたものとされています。頭は普通大陸のライオンを形どったものが多いですが、ここの獅子舞は、400年以上古い歴史を持つとされている猪頭でしょう。野良犬獅子の頭は非常に重い桐製で、かつて村に疫病が流行ると村の疫病払い獅子を舞い、かんばつになると雨乞い獅子を舞いました。祭りは春には病気除去と豊作を祈願し、秋には豊作に感謝の報告と村に病気なし（病気平よう）を祈願します。

青梨子町

④天満宮(菅原神社)

この神社はいつ頃創建されたのかわかりません。俚伝(りでん)によりますと江戸時代の中頃には相当栄えたといわれています。この神社の祭神は学問の神様と信奉されています菅原道真公(845～903年)です。祭日は毎月の25日といわれています。例祭日は3月25日と9月25日で、かってはお祭の日は参詣者が非常に多く、神社の長い参道と境内には露天が並び非常に賑わったといわれます。現在は進学祈願の参詣者が多いようです。

この天満宮には、古くから正月に書いた書き初めなどの習字を正月25日に天満宮に納めると、書道が上達するという風習があり、古くから納められた習字の束が多くつるしてあります。菅原道真が愛した梅を天満宮の参道に戦後植えたとされています。その梅の木が春先には見事に開花し、心をなごませてくれます。

その他に、境内には、秋葉神、百庚申塔などの石造物があります。

⑤寝牛(ねうし)

天満宮境内に石造の寝牛が奉納されています。全長1メートル42センチ、高さ46センチ、他に見られない貴重なもので、基台に「山子田村、彫刻師高橋善住」と石工の名が見えます。天満宮の牛は、天神様(菅原道真)が牛に乗ったということで、牛を神使として安置されたものです。この天満宮にお参りし、この牛を手でなでてお祈りすると、願いごとがかなうとされています。現在も進学祈願の人々などが多く訪れています。残念なことにこの牛の角や耳が破壊されてありません。

上青梨子町

⑥淡島神社

淡島神社は、和歌山県海草郡の淡島神社を勧請して祀ったものです。

天長年間(824年頃)に建てられた古いもので、信仰形態は婦人の下の病にご利益があるいうことで全国的に深い信仰をもたらしました。古くは3月3日女の節句に地域の女性が淡島講(三ヶ月講)に淡島和讃を唱えて講を行い、元禄の頃(1688～1704年)には信者が全国的に淡島様を安置したオズシを背負い色とりどりの布きれを提げ、声高らかに「女子の下の病にご利益あり」と唱えながら巡回して淡島信仰を勧め歩きました。

今では縁結び、子育てに特別なご利益があるといわれ参詣者も多くいます。

池端町

⑦神明宮

この神社は古墳の上に建立されていて、祭神は大日霎命(おおひめのみこと)、天照皇大神などとされています。

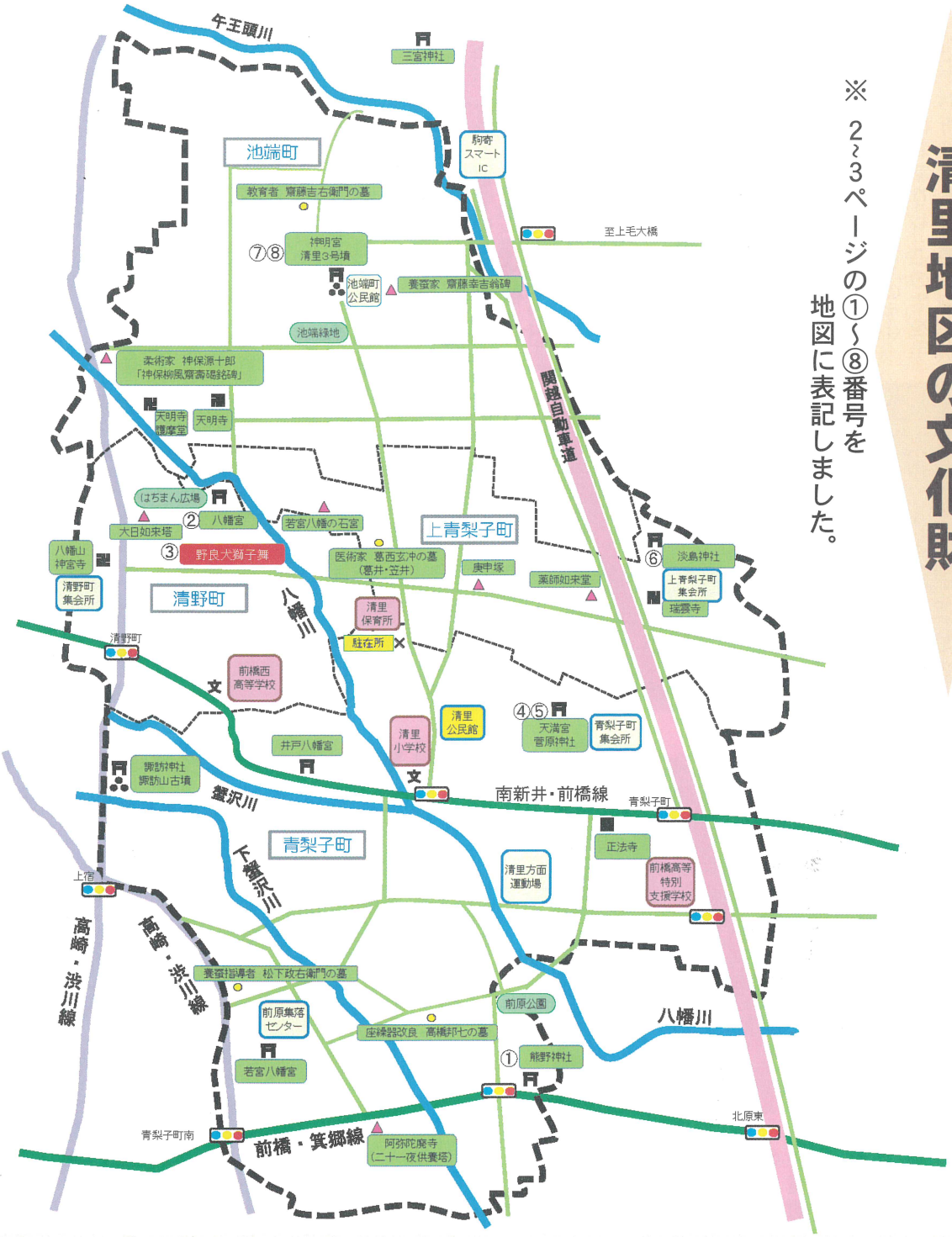
古い歴史を持つ神社で、上野神明帳には「従五位池端明神」とありますので、少なくともこの神社の創建は、永仁6年(1298年)と考えられます。祭日は、春は4月9日、秋は10月9日です。

⑧幸神の石造物

神明宮の境内には、多くの石造物が建立されています。なかでも私どもの目を引くのは幸神の石造物です。これは庚申の石造物であったものが、神仏分離令によって、庚申を改めたもので、この石造物の上部あった。凡字が削り取られています。これは庚申の凡字であったためと考えられます。このような歴史を生きてきた貴重な石造物なのです。

清里地区の文化財

※2～3ページの①～⑧番号を地図に表記しました。



編集後記

新型コロナウイルスの影響による感染症拡大防止のため地域行事のほとんどが中止になりました。有効なワクチンや治療薬ができるまでは感染防止に取り組む必要がありますので引き続き新しい生活様式の実践をお願いします。

今年も台風の季節になりました。九州方面では台風9号、10号による甚大なる被害が発生しました。群馬県でも昨年の台風19号による被害が記憶に新しいと思います。近年の大型化した台風や豪雨で壊滅的な被害も発生しています。激化する台風の背景には「地球の温暖化」の影響が関係していることが明らかになってきています。地球の温暖化が進み、海水温が上昇すれば、それだけ急速に台風の威力が増すとのことです。台風による被害を減少させるためには、地球の温暖化を防止して行く必要が有りそうです。そのために温室効果ガスである二酸化炭素の排出を減らすことが重要です。

温暖化防止のために一人一人で行なえる小さな省エネの工夫に取り組んでいきましょう。（M・S）